

編集後記

平成 20 年初春の月報をお届けします。旧年 11 月 10 日は本研究所創立 40 周年記念公開講座が神田校舎で催されました。「旅」というテーマの中で、日本古代史における骨送使に関して、また出羽路の芭蕉にかかわる人物や修験道等についての講演が行なわれた。神田神保町はやはり文化発信の地、大教室に会場を移して開かれました。次回は 3 月 1 日に行なわれる予定で、日本近代史と遠藤周作論の講演となります。

さて本号は二篇の論稿を収めています。川上周三論文ではピューリタン系譜の社会思想家についての比較究明を重ねている。19 世紀後半から 20 世紀後半までのピューリタン系社会思想家を通観する視点から、マックス・ヴェーバー、賀川豊彦、タルコット・パーソンズを対象として社会的状況や個人的状況を明らかにしている。

野口武悟論文では特別支援教育における学校図書館の新たな役割を考察している。その役割は児童・生徒の障害への対応に留まることなく、学校図書館メディアセンターへの転換・整備を主張している。特別支援教育に携わるすべての関係者の協力を重視している。

学内は年度末に入るが、研究員諸氏の一年間の実りある成果を期待したい。

(こ)

執筆者紹介 (アイウエオ順)

川上 周三 文学部教授

野口 武悟 文学部講師

専修大学人文科学研究所月報

第 232 号 (2008. 1. 30)

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

専修大学人文科学研究所

発行者 殿 村 晋 一